

令和5年度
舞台芸術等総合支援事業
(劇場・音楽堂等機能強化総合支援)

自己点検報告書

団 体 名	公益財団法人兵庫県芸術文化協会 兵庫県立尼崎青少年創造劇場	
施 設 名	兵庫県立尼崎青少年創造劇場 (ピッコロシアター)	
助 成 対 象 活 動 名	“「観る」「知る」「学ぶ」そして「繋がる」50年へ” 後期行動計画	
助 成 期 間	5	(年間)
内 定 額	44,668	(千円)

1. 事業概要

(1) 事業計画の概要

全体図（概念図）

地域が芸術文化でつながり誰もが生きやすい社会をつくる

創造発信

ミッション 1 意欲的で質の高い舞台芸術の創造と鑑賞機会の提供

- ・ピッコロ劇団公演／ピッコロシアタープロデュース作品の創造と発信（新作企画、優れた作品の発掘と新演出、関西演劇人との協働）
- ・劇団設立30周年、阪神・淡路大震災30年を見据えたピッコロシアター・ピッコロ劇団ならではの企画の推進
- ・コロナ禍でのITを活用した新たな鑑賞機会の提供

アウトカム

- 質の高い創造の場を確保し、わが国の舞台芸術の水準の向上。
- 住民の鑑賞機会の拡大により、舞台芸術が生活に自然に息づく社会の実現。
- 東京一極集中の中、関西におけるアーティスト活動の場を継続提供し、人材流失防止と舞台芸術の活性化。

交流連携

ミッション 2 赤ちゃんからシニアまで、地域の広場としての劇場機能の発揮

- ・シアタースタート（幼児向け）・おもちゃの広場
- ・ピッコロおはなしBOX（幼児～小学生向け）
- ・ピッコロ劇団おでかけステージ（小学生向け）
- ・ピッコロ劇団わくわくステージ（中学生向け）
- ・ピッコロ劇団ファミリー劇場
- ・子どもと楽しむ落語会（ファミリー向け）
- ・ピッコロフェスティバルの開催
- ・40歳からのワンコイン演劇講座

アウトカム

- 地域の広場として劇場に多様な世代が集う。
- 住民の鑑賞活動の拡大により、舞台芸術が生活に自然に息づく社会の実現。

地域創生

ミッション 4 社会包摂につながる芸術活動の推進によるコミュニティの創生

- ・鑑賞サポート事業（音声ガイド、字幕付き公演等）の充実と普及の促進により障害のある人のアクセシビリティを向上
- ・演劇鑑賞機会の少ない地域へのアウトリーチ公演（ピッコロ劇団おでかけステージ、ピッコロ劇団わくわくステージ、ピッコロ劇団県内市町ホール公演）
- ・ピッコロ劇団による社会的諸課題の解決に向けたアウトリーチ・インリーチ活動の展開
- ・地元行政、企業等と連携した経済的に支援が必要な子どもたちへの鑑賞機会の提供

アウトカム

- 障害の有無や年齢、居住地域に関わらず、芸術鑑賞・体験ができる社会の実現。
- 地域団体や専門家・研究者などと連携し、地域が抱える社会的課題の解決。
- 経済的に支援が必要な子どもの鑑賞機会の確保。

人材育成

ミッション 3 芸術活動の裾野を広げる人材育成の拠点としての役割の発揮

- ・ピッコロ演劇学校・舞台技術学校の運営
- ・同卒業生のネットワークの強化（卒業生ホームカミングデーの開催）
- ・ピッコロ劇団員によるアウトリーチ指導（ワークショップなど）
- ・ピッコロフェスティバル
- ・ピッコロ実技教室（狂言入門など）
- ・ピッコロシアター文化セミナー・ラボ

アウトカム

- 将来の演劇創造や地域文化の担い手となる人材の確保。
- 芸術文化の裾野を広げ、鑑賞者・活動者の拡大。

(2) 令和5年度実施事業一覧

番号	事業名	主な実施日程		概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数 (人)	
		主な実施会場			目標値	実績値
1	ピッコロ劇団第76回公演「やわらかい服を着て」	7/21(金)～23(日)、7/25(火)		作＝永井愛／演出＝眞山直則(ピッコロ劇団)／出演者＝ピッコロ劇団員 ※出演者体調不良で1公演は中止	目標値	1,728
		ピッコロシアター大ホール			実績値	692※
2	兵庫県立ピッコロ劇団第77回公演「スターマン」	9/30(土)・10/1(日) 10/3(火)～10/5(木)		作・演出＝岩松了／出演者＝ピッコロ劇団員 ※要望時の演目の作者が体調不良であったため演目変更して実施	目標値	1,728
		ピッコロシアター大ホール			実績値	906
3	兵庫県立ピッコロ劇団第78回公演 ピッコロシアタープロデュース「ロボット-RUR-」	2/23(金・祝)～2/25(日)		作＝カレル・チャペック／翻訳＝田才益夫／演出＝高橋正徳(文学座)／出演者＝ピッコロ劇団員ほか	目標値	2,160
		県立芸術文化センター 阪急中ホール			実績値	1,041※
4	兵庫県立ピッコロ劇団ファミリー劇場「森のなかの海賊船～こそあどの森の物語～」	①8/5(土)・8/6(日) ②12/23(土)・12/24(日)		原作＝岡田淳／台本＝秋浜悟史／潤色・演出＝平井久美子(ピッコロ劇団員)／音楽＝園田容子／出演＝ピッコロ劇団員	目標値	2,832
		①ピッコロシアター大ホール ②県立芸術文化センター 阪急中ホール			実績値	1,664※
5	兵庫県立ピッコロ劇団オフシアターVol.39「バックネット委員会」	4/7(金)～4/9(日)		作＝伊地知克介／演出＝岡田力(ピッコロ劇団員)／出演者＝ピッコロ劇団員	目標値	450
		ピッコロシアター中ホール			実績値	400
6	ピッコロ演劇学校	4月～3月		本科(105講義)／研究科(93講義)前期発表会(本科)10/28・10/29、(研究科)11/4・11/5 合同卒業公演3/2・3/3	目標値	60
		ピッコロシアター			実績値	42
7	ピッコロ舞台技術学校	4月～3月		105講義 ①特別授業9/27-9/29 ②合同卒業公演3/2・3/3	目標値	30
		①県立芸術文化センター ②ピッコロシアター			実績値	21
8	2023ピッコロフェスティバル	7/29(土)～9/3(日)		県民参加企画(演劇(小・中・高校演劇部))／地域団体連携企画(人形劇フェスタ、パリアフリーコンサート他)	目標値	2,500
		ピッコロシアター			実績値	4,373
9	兵庫県立ピッコロ劇団による社会的課題解決型アウトリーチ・インリーチいっしょにピッコロひろば	4月～3月		ピッコロ劇団員2～5名が県内各地(主に小学校)に出向き行う演劇表現ワークショップ	目標値	380
		養父市立建屋小学校他			実績値	539
10	兵庫県立ピッコロ劇団おでかけステージ「タラレバ幽霊とタカラの山」	10/31(火), 11/4(土), 11/11(土)		台本＝谷口雅美・原竹志(ピッコロ劇団員)／演出＝原竹志(ピッコロ劇団員)／出演者＝ピッコロ劇団員	目標値	1,200
		(小学校体育館等)			実績値	485
11	中学生のための演劇鑑賞体験事業 ピッコロわくわくステージ「森のなかの海賊船～こそあどの森の物語～」	①5/24(水)～6/1(木) ②6/9(金) ③11/24(金)～12/1(金)		中学生を対象とした演劇舞台普及事業。5・6月及び11・12月にピッコロシアター等で開催 ※6/2(2公演)は暴風警報で中止。一部は11-12月に延期対応	目標値	6,000
		①③ピッコロシアター大ホール ②赤穂市文化会館赤穂化成ハーモニーホール			実績値	4,460

12	ピッコロシアター文化セミナー、文化セミナーラボ	①8/29(火) ②10/3(火) ③1/21(日) ④3/3(日)	<文化セミナー> ①演目=「演劇のタクラミ」/講師=平田オリザ、岩松了 <文化セミナーラボ> ②演目=「直観読みブックメーカー」/講師=陸奥賢・野秋裕香 ③演目=「舞台通訳手話ってなんだろう?」/講師=下坂幸恵 ④演目=「劇場で学ぶ!」/演劇学校等卒業生	目標値	470
		ピッコロシアター ①大ホール ③小ホール ②④閲覧室		実績値	456
13	ピッコロ寄席「子どもと楽しむ落語会」	3/9(土)	出演者=桂吉弥、桂小鯛、桂弥彦	目標値	336
		ピッコロシアター大ホール		実績値	163
14	シアタースタート くわえ・ぱべっとステージ「ぶっかり ぼっかり」「おふろでチャプン!」「しっぽしっぽだれのしっぽ」	①9/15(金) ②7/29(土)	①演目=シアタースタート/出演者=つげくわえ ②演目=おもちゃの広場/出演者=竹之下和美(人形劇団おまけのおまけ、おもちゃコンサルタント、NPO 法人絵本で子育てセンター絵本講師)	目標値	180
		①②ピッコロシアター中ホール		実績値	147
15	ピッコロ実技教室	①8/19(土)・8/20(日) ②8/9(水) ③8/6(日)	①演目=「ちょっと!狂言~入門編~」/講師=善竹隆司 ②演目=「まわしよみ新聞×演劇<壁新聞を演じてみる>」/講師=陸奥賢、ピッコロ劇団員 ③演目=「40歳からのワンコイン演劇講座」/講師=瀬口昌生	目標値	65
		ピッコロシアター ①大ホール ②小ホール ③中ホール		実績値	65

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

2. 自己評価

(1) 妥当性

自己評価	
事業計画に必要な構成要素が有機的に連関し、当初の予定通りに事業が進められているか。	
<p>地域が芸術文化でつながり、誰もが生きやすい社会</p> <p>兵庫県では、「芸術文化立県ひょうご～芸術文化で人や地域を元気にし、未来を開く社会の実現～」を基本目標とする兵庫県芸術文化振興ビジョンを策定し芸術文化の振興に取り組んでいる。</p> <p>R5年に開館45年を迎えた兵庫県立尼崎青少年創造劇場では、来る50年に向けて、「地域が芸術文化でつながり、誰もが生きやすい社会」をつくることをミッションとし、4つの小ミッション（創造発信、交流連携、人材育成、地域創生）を掲げて事業を実施している。特に、事業実施に際しては、開館以来培ってきた《劇場・劇団・学校》を持つ強みを活かし、これらを有機的に連関させることで、「創造発信→交流連携→人材育成→地域創生」というプラスの循環を生み出し成果を上げている。</p>	
創造発信	ピッコロ劇団による現代劇から海外戯曲までの上質な作品を創造するとともに、ピッコロシアター以外の劇場や学校など幅広い公演活動を展開することで鑑賞機会を提供した。また、関西で活躍する俳優やスタッフを起用して人材流失防止と関西演劇界の活性化に寄与した。
交流連携	乳幼児向けのシアタースタートや様々な世代向けのピッコロ実技教室、青少年の成果発表と交流の場となるピッコロフェスティバルの開催等、各世代が集う地域のひろばとしての機能を発揮した。
人材育成	演劇学校（本科、研究科）や舞台技術学校の運営並びに劇団員による教育機関等と連携したワークショップ等の開催によって、舞台芸術を通して地域づくりに貢献できる人材、将来の演劇創造者や地域に根ざした文化活動のリーダーとして活躍できる人材の育成を推進した。
地域創生	ファミリー劇場やわくわくステージ等において、劇団員自ら作成・操作する視覚障害者のための音声ガイド付き公演や聴覚障害者のための字幕付き公演、舞台手話通訳付き公演等、障害者への鑑賞サポートを実施した。また、経済的に支援が必要な子どもの招待や在留外国人等を対象としたワークショップを開催するなど社会包摂につながる活動を実施した。
助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。	
<h4>1 文化的意義</h4> <p>(1) 専属劇団による上質な演劇鑑賞機会の提供</p> <p>劇団公演では、岩松了劇団代表の脚本・演出による公演や著名作家の戯曲等、様々なテーマの公演に取り組んだ。第78回公演「ロボット-RUR-」は、100年前の作品ながら現代のAI全盛を改めて考えさせるタイムリーな公演として高く評価された。また、第76回公演「やわらかい服を着て」では主演の原竹志（ピッコロ劇団員）が関西現代演劇俳優大賞を受賞する等、演劇評論家からも高く評価されており、わが国の演劇文化の水準の向上に寄与している。</p> <p>(2) 演劇文化の普及推進</p> <p>開館記念日(8月19日)を中心に約1カ月間、地域で演劇等の創作活動に取り組む青少年の成果発表と交流の場として施設を無償提供するピッコロフェスティバルを開催しR5年度は3,720人の参加を得て地域文化の裾野拡大に貢献した。また、中学生対象のわくわくステージではR5年度は35校4,460人とR4年度を上回る生徒等が鑑賞した。さらに劇団員を学校等に派遣する演劇アウトリーチ活動も46件実施し、演劇文化の普及に貢献するとともに、鑑賞機会の少ない地域での公演実施により地域間格差の解消にも努めた。</p>	
<h4>2 社会的意義</h4> <p>(1) 舞台芸術の担い手の育成</p> <p>演劇学校・舞台技術学校は、日本を代表する演劇人や舞台技術者による特別講義、並びに実際の舞台機構を使った実践的な授業等も組み込んだカリキュラムとなっており、R5年度は57人の卒業生を輩出し、卒業生は劇団や制作会社等で活躍している。</p> <p>(2) 社会包摂の推進</p> <p>視覚障害者のための音声ガイド付き公演や聴覚障害者のための字幕付き・舞台手話付き公演は、障害者の鑑賞体験機会の拡大に大きく寄与するとともに、この先進的な取組みを広く普及する活動により、同様の取組みが他の施設にも拡大している。また、在留外国人を対象としたワークショップは、演劇の力で在留外国人の地域コミュニティ参加を支援する先導的な取組みとして全国的にも注目されている。</p> <p>(3) 地域のひろばとしての機能の発揮</p> <p>乳幼児・家族～幼児・小～中～高校生・大学生・大人～ファミリーと幅広い世代に対して特色ある鑑賞体験事業や実技教室等の体験事業を実施することで地域のひろばとしての機能を発揮した。</p>	
<h4>3 経済的意義</h4> <p>舞台芸術の創造発信やその鑑賞機会においても首都圏への集中する中、劇団・学校を附設する劇場が地域（兵庫/尼崎）に存在することで地域のニーズに合った事業活動・運営を展開している。また、舞台制作に際しても、兵庫県や関西で活躍する作家・美術家等のスタッフや俳優陣とともに創り上げることに配慮しており、舞台事業関係者に対して兵庫県や関西での活躍の場を創造・提供することで関西演劇界の活性化に繋げている。</p>	

(2) 有効性

自己評価

目標を達成し、アウトカムの発現は可能か。

「妥当性」の項目において記載したインプットにより計画したアウトプットを得るとともに、設定したアウトカムの発現を目指したが目標の指標に達しないものがあつた。R5年度の状況は以下のとおり。

(1) ミッション1 意欲的で質の高い舞台芸術の創造と鑑賞機会の提供（創造発信）

アウトカム	目標	指標	R5実績
(A) 質の高い創造の場を確保し、わが国の舞台芸術の水準を向上	安定して質の高い劇団公演を継続し、関西演劇界を牽引する	ピッコロ劇団公演事業数の確保と充実	⑦年間6~7事業実施 年間10事業を実施【達成】
			⑧アンケート満足度90%以上 本公演(83.1%)ファミリー劇場(85.9%)【未達成】
R5年度達成状況	⑦年間事業数や⑧動画配信は指標を達成したが、⑧アンケート結果は指標を若干下回り未達成となった。これは重厚な作品や劇構成が複雑な作品が含まれたことによると思われる。今後は年間ラインナップのバランスを慎重に検討していきたい。		
(B) 住民の鑑賞機会の拡大により、舞台芸術が生活に自然に息づく社会の実現	舞台芸術への関心を高める	「もう一度演劇が見たい」と回答した割合	⑨90%以上(わくわくステージ) 生徒の回答(86.1%) 【未達成】
R5年度達成状況	⑨アンケート結果は指標を若干下回り未達成となった。これは装置や物語の展開がやや抽象的であったことによると思われる。次年度以降の演出やアフタートークによる解説等で配慮していきたい。		
(C) 関西におけるアーティスト活動の場の提供による人材流失の防止と地域舞台芸術の活性化	関西演劇人と協働するプロデュース公演など関西で活躍する俳優スタッフを活用する	劇団外の関西演劇人の参加	⑩約100人/年を維持 132名【達成】
R5年度達成状況	⑩の関西演劇人の参加人数については、多くの参加が得られ達成した。劇団内部の演出はもちろん、東京から演出者を招聘する際も関西演劇人との出会いを心掛けた。		

(2) ミッション2 赤ちゃんからシニアまで地域の広場としての劇場機能の発揮（交流連携）

アウトカム	目標	指標	R5実績
(D) 地域の広場として劇場に多様な世代が集う	各世代に向けた事業を展開し幅広い世代が集う	劇場入館者数	⑪コロナ前水準(観12万人)への回復 98,616人【未達成】
R5年度達成状況	⑪劇場入館者数指標を下回り未達成となった。ピッコロフェスティバルでは参加者がR4年度より増大する等、回復基調であるが、特に観劇公演で観客を中心にコロナ禍で定着した密を避ける行動パターンが残っていることが影響している。次年度以降、広報による改善を図る。		

(3) ミッション3 芸術文化の裾野を広げる人材育成の拠点としての役割の発揮（人材育成）

アウトカム	目標	指標	R5実績
(E) 将来の演劇創造や地域文化の担い手の人材の確保	演劇学校・舞台技術学校を運営し卒業生が地域で活躍する 教育現場との連携強化により演劇の裾野を拡大する	卒業生の活躍	⑫卒業時アンケート満足度90% 100%【達成】
			⑬卒業生の80%以上が関連の活動を継続 95%【達成】
		ピッコロ劇団のアウトリーチ活動の展開	⑭35校/年 36校/年【達成】
R5年度達成状況	⑫アンケートや⑬活動継続、さらには⑭アウトリーチ活動のいずれの指標も達成している。		
(F) 芸術文化の裾野を広げ、活動者・鑑賞者の拡大	ピッコロフェスティバル、実技教室、文化セミナー等を開催し地域の芸術文化活動者の活動や鑑賞力向上を支援する	ピッコロフェスティバル等への参加者の満足度	⑮満足度90%以上 92%(ピッコロフェスティバル参加団体アンケート)【達成】
R5年度達成状況	⑮アンケートの指標は達成しており、当劇場の活動が芸術文化の裾野拡大等のアウトカム発現が認められる。		

(4) ミッション4 社会包摂につながる芸術活動の推進によるコミュニティの創生（地域創生）

アウトカム	目標	指標	R5実績
(G) 障害の有無や年齢など、居住地域に関わらない芸術体験ができる社会の実現	劇場へのアクセシビリティを向上するとともに鑑賞サポートを外部に普及する	鑑賞サポート公演の開催	⑯3事業/年 3事業/年【達成】
			⑰普及のための研修会の開催 外部団体の講師として4回実施【達成】
R5年度達成状況	⑯鑑賞サポート公演実施や⑰の指標は達成しておりアウトカム発現が認められる。		
(H) 地域団体や専門家などと連携し、地域が抱える社会的課題の解決	ワークショップの開催を通じて地域コミュニティを創成する	ピッコロ劇団による演劇ワークショップの充実	⑱アンケートによる満足度90%以上 98.3%【達成】
R5年度達成状況	⑱アンケートの指標は達成しており、地域が抱える社会的課題の解決に向けたアウトカム発現が認められる。		
(I) 経済的に支援が必要な子どもたちの鑑賞機会の確保	地元行政、企業と連携し子どもたちをファミリー劇場等に招待する	招待する子どもの数	470人/年 645人/年【達成】
R5年度達成状況	⑲招待する子どもの数の指標は達成しており、様々な事業を通じて子どもたちの鑑賞機会の確保に尽力していることからアウトカム発現が認められる。		

(3) 効率性

自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んでいるか。

R5年度については、一部の公演を除き、計画した事業期間内に事業を実施することができたことから、ほぼ所定のアウトプットを得ることができた。しかし、特に演劇公演では、新型コロナウイルス感染者数の増加期（R5年7～8月、R6年2月）には、高齢者を中心にコロナ禍で定着した密を避ける行動パターンの影響から観劇マインドが十分に高まっておらず、コロナ前の参加者数までの回復には至らなかった。

実施状況

コロナが5類に変更された後も劇団員や劇場職員はコロナ感染症予防対策の徹底を図りながら事業実施に努めた。その結果、次の事例を除き、計画通りに事業を実施することができた。

- ① 第77回ピッコロ劇団公演については、要望時に計画していた新作演目が作家の体調不良から上演が困難となり他の演目に変更になった。この新作演目については、R8年度に上演する予定である。
- ② 6/2の中学生の演劇鑑賞体験事業「わくわくステージ」については、暴風雨の影響で中止となったが、当日参加予定であった5校中4校については秋期に振り替えて鑑賞することができた。
- ③ 第76回ピッコロ劇団公演「やわらかい服を着て」については、劇団員の体調不良により1公演が中止になった。

アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んでいるか。

事業費について、R5年度は、要望時に計画していたピッコロ公演の新作演目が作家の体調不良から演目変更する等の事情があったが、関係者との調整の結果、想定事業費内で同等以上の事業を実施することができた。

状況

助成金交付要望時予算 121,566千円

収支決算 93,658千円

収支予算との差は、△23.0%となった。

【主な理由】

- ① 劇団公演については、要望時は出演者数、舞台美術や演出内容、それに伴うスタッフ数が未定であったため過去の同規模公演を元に積算していたが、演出プラン等が確定したこと、さらにはピッコロ公演の新作演目が作家の体調不良から演目変更（劇団代表・岩松了の過去の代表作の一つを新演出で上演。当初予定していた演目より小規模な作品となった。）になるという事情や、ファミリー劇場公演では新型コロナウイルス感染防止対策として子ども出演を取り止め等が発生したことにより、要望時の予算より収支決算は低減した。
- ② わくわくステージについては、要望時において公演先、公演数が未定であったため、過去の公演をもとに積算していたが、学校側の事情によって公演数の減少等により収支予算は低減した。

(4) 創造性

自己評価

事業計画の内容が、独創性、新規性、先導性に優れている（と認められる）か。

兵庫県立尼崎青少年創造劇場は、〈劇場・劇団・学校〉を併せ持つ全国唯一の公立文化施設である。この強み(独自性)を活かし、3つの要素を相互に関連させながら、4つのミッションの実現を目指して独創性、新規性、先導性に優れた事業を展開した。

1 独創性

劇団	<p>ピッコロ劇団は、イラク戦争下、人道支援に取り組む若者の挫折と再生を通して、紛争が続く現代社会への警鐘と「対話の可能性」を想起させる永井愛作「やわらかい服を着て」や、岩松了劇団代表の演劇的な企みに満ちた初期の作品「スターマン」、科学技術と社会・人間との関わりを鋭く問うカベル・チャペックの歴史的名作「ロボット-RUR-」を上演した。いずれの公演も数十年～百年前に書かれた戯曲ではあるが、それ故に現代社会の歪みをかえって鮮烈に照射していることを改めて提示した。</p> <p>また、「やわらかい服を着て」で主演を務めた原竹志（ピッコロ劇団）は関西現代演劇俳優賞大賞を受賞し演劇評論家からも高く評価された。</p>
学校	<p>演劇学校の講師陣には、日本を代表する演劇界の有識者に加えて、ピッコロ劇団員も講師や助手として数多く参加している。会場も大ホール等、実際に演劇を行う場所での教育を行うなど、劇場・劇団・学校を併せ持つ当劇場の強みを遺憾なく発揮している。</p> <p>また、卒業生は、地域の文化施設や教育機関等に従事する者だけでなく、ピッコロ劇団に入団する者もあり、人材育成においても劇場・劇団・学校の相互連関による好循環が図られている。</p>

2 新規性

劇場	<p>劇団公演において、視覚障害者及び聴覚障害者を対象とした音声ガイド付や字幕付の鑑賞サポートを導入している。それに加えて、視覚障害者向けには俳優自ら役の自己紹介をした音声CDを事前提供したり、会場で立体コピーを用いた舞台装置の説明を行うとともに、聴覚障害者向けには舞台手話通訳の導入を盛り込む等、劇場と劇団が一体となった先導的なバリアフリー公演を開催している。</p> <p>劇団公演及び「わくわくステージ」で実施している鑑賞サポートでは、演出の意図や作品の性格、進行を熟知した劇団員自らが音声ガイドや字幕を作成するとともに、公演現場ではライブでナレーションや字幕操作も担当している。また、俳優の演技に合わせてガイドや字幕表示のタイミング・表記等を劇団員が精査するため、鑑賞する生徒からは「わかりやすい」や「よく雰囲気伝わる」と高い評価を受けている。また、教員からも「視覚障害から引きこもりがち生徒にとって、劇場での鑑賞サポート付き公演の鑑賞は貴重な体験となっている」や「ピッコロ劇団の公演を鑑賞して、舞台衣装の製作の仕事に興味を持つ等、生徒が前向きになった」とのコメントを頂いている。</p>
学校	<p>日々、技術が進展する舞台技術の中でも、特に音響については、舞台の機械操作のみならず、ライブなど様々な分野での音響デザイン創作や自主性を重んじる内容に盛り込む等、学校講師陣によるカリキュラム見直しを常に更新していることから、学校生の卒業後の満足度アンケートは高い評価を得ている。</p> <p>また、生徒勧誘では、劇場のみならず、オンラインでのオープンキャンパスも開催することで、仕事や遠距離などの問題で参加を躊躇していた社会人等にも広く広報を行い本校の魅力を紹介した。</p>

3 先導性

劇場	<p>視覚障害者及び聴覚障害者を対象とした音声ガイド付や字幕付の鑑賞サポートを担当する劇団員や劇場職員が学会や研究集会、他団体の各種講座等で講師を務め、鑑賞サポートの全国への普及啓発に努めている。その結果、宝塚歌劇でのタブレットによる字幕導入や兵庫県立芸術文化センターでの「劇場って楽しい」等の社会包摂事業が実施される等、広がりを見せている。鑑賞サポート実施に際しては、(社協)日本ライトハウスや(一社)障害者舞台芸術機構、NPO シターアクセシビリティネットワーク、兵庫県難聴者協会、尼崎視覚障害者協会などとの連携も図っており、R5年度は、舞台手話通訳の有識者による文化セミナーラボも開催して、鑑賞サポートに関わる人的ネットワークを更に強化している。</p>
劇団	<p>ピッコロ劇団は在留外国人の地域コミュニティ参加を支援するワークショップを地域団体と連携して実施し高い評価を得ている。小野市でのワークショップでは、在留外国人個人の変化として「もっと人とつながりたいと思うきっかけとなった」や「行動範囲が広がった(会社・自宅・買い物以外に行く場所が増えた)」「先入観をなくすことに成功した」とのコメントがあった。また、地域社会での変化としては、「在留外国人がいる職場でのコミュニケーションが活性化した」や「在留外国人がいる企業と地域団体の連携が図られた。」「在留外国人が参加する地域の交流会に発展し相互理解が進んだ」との効果が現れた。さらには、行政としても「災害対応やゴミ出しルールの徹底等、在留外国人への行政施策の説明が容易になった」など、ワークショップの場が一つの行政と在留外国人を結ぶプラットフォームの役割を果たすようになった良い変化が起きている。</p> <p>日本劇団協議会の支援の下、R3年度に小野市で始まった本事業は、その後、加東市、さらに本助成金を活用して三木市へと拡大しており、演劇の力による地域創造の新たな形として高い関心が寄せられている。</p>

自己評価

事業の実施によって、当該劇場・音楽堂等の国内外での評価の向上につながっている（と認められる）か。
当劇場・劇団の事業は観客や専門家、参加者等から以下の評価を受けており、劇場評価の向上につながっている。

1 ピッコロ劇団公演の評価

(1) 観客の評価：劇団公演における観客アンケート調査の結果は次のとおり。安定して高い評価を得ている。

【観客アンケート結果】 ※ 満足度は、「とてもよかった」「よかった」「ふつう」「よくなかった」のうち、「よかった」以上の割合

年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
満足度	87.1%	82.7%	98.1%	94.4%	93.6%	83.1%

(2) 受賞歴 R5) 原竹志（ピッコロ劇団員） 「やわらかい服を着て」で関西現代演劇俳優賞大賞 受賞

(3) 主な劇評： Join（日本劇団協議会機関誌）No.108「私が選ぶベストワン」において、多くの東京制作の作品や俳優等が選出される中、作品ではオフシアター「バックネット委員会」（伊地知克介作）が、俳優では劇団公演「やわらかい服を着て」から森好文（ピッコロ劇団）、原竹志（ピッコロ劇団）が選出された。

(4) 専門家の評価

- ① 「やわらかい服を着て」（新聞記者）
「20年前の若者たちの”熱”を、現在の空気の中でどう表現するかが難しい点だと思われるが、演出家も1人1人の俳優も真摯に向き合ってきたことがよく伝わってきた」
- ② 「スターマン」（演劇プロデューサー）
「何の事件も起こらず人間関係にも変化がない。会話だけの2時間というのは凄い。兄妹と友人隣人たち5人の間を、日常という一陣の風がさっと通りぬけていったように感じた」
- ③ 「ロボット-RUR-」（演劇評論家）
「ロボットヘレナとプリムスの関係が演技で表現され、ヘレナのエネルギーも伝わり、絶望的な世界を変えられるかもしれないと期待できた。そして風太郎さんが力強く世界観を構築してエンディングは心に響いた」

2 鑑賞サポート事業の評価（利用者の感想）

- ① 50代女性（聴覚障害者）「鑑賞サポート（字幕）のおかげで娘（20代：健聴者）と初めて二人で同じ公演を見てとても感動しました。また公演後もその話が弾みうれしかったです」
- ② 70代男性（芝居やオペラ、歌舞伎、パレエ等が好きな聴覚障害をお持ちの高齢者）「補聴器の設定を高いレベルにしてもなかなか言葉が聞き取れないが、担当者が席を前にしてくれたり一部の公演で字幕があるのでほっとする」

3 ピッコロフェスティバルの評価（参加者の感想）

R5年度満足度	93%
---------	-----

- ① 中学校教員「このフェスティバルでの演劇は、不登校の子供たちが舞台上で自分の役を演じるという目標に向かって部活動のみではあるが登校する強い動機になっている。演劇は本人が自信を持つきっかけとなっているし、コミュニケーション能力の向上や自己表現を通じて他人への優しさ等を学ぶ教育上の効果も大きい」
- ② 鑑賞された方々「将来、幼稚園の先生を希望。表現の仕方や子供との接し方はとても勉強になった」、「10年以上前に人形劇フェスタ阪神で高校生として出演。母となって幼児と一緒に鑑賞し大変感動した」

4 演劇学校・舞台技術学校の評価（卒業生のコメント）

R5年度満足度	100%
---------	------

- ① 高校卒業後、家庭の事情で介護の仕事に就職したが激務に精神的・体力的に追い詰められ退職。将来を考えていた時に偶然見かけたピッコロ舞台技術学校のパンフレットに惹かれ入学。1年間必死に学んだ結果、卒業時に受験した舞台関連会社に合格。現在ではプロの技術者として活躍している。
- ② 有名大学に合格したが、大学の雰囲気や同級生になじめず、不本意な生活を繰り返していた。演劇に興味はなかったが、何となく受けた演劇学校で仲間と作り上げていく舞台に魅せられ、積極的に制作業務を担当する。大学にも意欲的に通えるようになり卒業後はプロの制作者として舞台製作に関わっている。
- ③ コロナ禍の期間、大学に通う目的を見失い通学が困難になった学生が演劇学校で演劇を学ぶことでコミュニケーションの楽しさを実感し前向きな気持ちを持つことができるようになって大学に復学できた。

5 演劇アウトリーチ（ワークショップ）にほんごde あそぼう！（三木市）参加者のコメント

R5年度満足度（在留外国人）	98%
----------------	-----

(1) 参加者の評価

- ① 在留外国人「いろいろな人とつながれたように思えた。」「また参加して日本語をいっぱい覚えたい」「みんなで一緒に身体を動かすことが楽しかった」
- ② 地域社会「みんなの笑顔が見えて、子どもたちも親以外の人たちと交流できた。とても斬新で温かく感じる活動だった」

(2) 受賞歴 R6) ひょうご国際交流団体連絡協議会 草の根国際功労賞 受賞

(3) その他 アウトリーチ活動に参加した在留外国人がピッコロ劇団公演を観劇に尼崎を訪れるといった効果も見られた。

(5) 持続性

自己評価

事業計画を通じて組織活動が持続的に発展する（と認められる）か。

以下の経営戦略や事業運営、人事戦略、ネットワーク構築によって、今後とも劇場・劇団運営の活動を持続的に発展できる体制を整えているとともに、文化庁助成金によって、当劇場・劇団事業の質における一層の厚みを増すことができている。

1 経営戦略

当劇場は、兵庫県からの指定管理（非公募）を継続して受けるとともに、〈劇場・劇団・学校〉の相互連携の下、兵庫県芸術文化振興ビジョンを踏まえたユニークな経営を行っている。その結果、これまでの実績と成果を踏まえ R6 年度から 3 年間についても指定管理を受けることとなった。

その経営戦略としては、設置者である兵庫県はもとより、劇場運営委員会や劇団企画運営委員会の有識者から助言、さらには地元自治体や企業、支援者からなるサポートクラブ、関西演劇界や日本劇団協議会等との連携を密とした運営を行っている。

2 事業運営

当劇場は、上質な劇団公演や演劇関連事業、鑑賞サポート等を実施してきた。さらには、公立文化施設における演劇を中心とした舞台芸術について、県民が安価で親しみやすい劇場環境を整えることで、多様な世代が集う広場としての機能を発揮している。これにより、東京一極集中が進む中、当劇場は関西を中心とした西日本の拠点として演劇や舞台技術の人材育成という県域を越えた課題にも長年貢献してきている。

特に、劇団を持つ劇場の強みを活かして、聴覚や視覚の障害者に対する鑑賞サポートも充実させるとともに、近年増加している在住外国人の地域コミュニティ参加という課題にも演劇の力で支援する等、「地域が芸術文化でつながり、誰もが生きやすい社会」というミッションを遂行するための様々な取り組みを行っており、これらについても徐々に広がりを見せている。

3 人事戦略

組織体制として正規職員数を維持（52.6%（R6年4月1日現在））するとともに、定年退職者の再雇用や劇場勤務・劇団所属経験のある嘱託員の任用、協会内の芸術文化センターなど他施設との人事交流等を図りながら、専門能力の高い職員の確保に努めている。また、職員を各種研修（全国公立文化施設協会や（一財）地域創造、兵庫県自治研修所など）へ積極的に参加させるほか、関係機関との連携事業への参加・協力等を通じて職員のスキルアップを図っている。また、劇団活動におけるハラスメントを防止するため、「ピッコロ劇団ハラスメントガイドライン」を R5 年度に制定し、劇団員等を対象としたハラスメント研修を実施する等、働きやすい職場環境の創出にも配慮していく。

4 ネットワーク構築

ピッコロ劇団は、教育機関（区市町教育委員会など）や行政機関、芸術文化専門職大学をはじめとする大学、高校等の教育機関等とネットワークを構築している。また、阪神・淡路大震災の際、演劇の力で被災者を支援した経験があることから、東日本大震災を経験した東北地方や熊本地震の被災地である熊本等とのネットワークを構築し交流を継続している。

さらには、演劇学校等の卒業生についても、R5 文化セミナーラボでの講師を依頼する等を通じて、ネットワークの構築を図っている。

持続的なアウトカムの発現・定着が期待できるか。

当劇場・劇団の活動は、以下の理由から持続的なアウトカムの発現・定着が期待できる。

劇場運営委員会や劇団企画運営委員会等の外部有識者からのご助言や各公演・事業等でのアンケートの実施、演劇学校・舞台技術学校の卒業生のアンケートや講師との意見等を反映させながら、上述の経営戦略・人事戦略の下、PDCA サイクルに基づき各事業を計画的に実施する事業運営を行うこと、特に、劇団公演やピッコロフェスティバル、演劇学校・舞台技術学校等においては、青少年のみならず高齢者や障害者、在留外国人等、「地域が芸術文化でつながり、誰もが生きやすい社会」を目指して各事業に取り組むことで、持続的なアウトカムの発現・定着を図っていきたいと考えている。